

四国・天狗塚～三嶺

日時: 2023年10月7日～8日

メンバー: A原、I崎

ことしの6月に、生まれて初めて四国の地の上陸しました。その時は、剣山～三嶺の縦走と石鎚山に登りました。広大な緑の笹原のスロープが美しく美しく、どこまでも歩いて行きたい衝動にかられました。

三嶺の山頂から見た山やまは同じような緑色のベルベットの山で、次くるときはあっちの山やそっちの山に登りたい、と思いました。合わせて、次はぜひ「戻りカツオ」を食したかったので、暑さがやわらぐ10月に再訪することにしました。

以前、高知に単身赴任していたI崎さんが同行することになりました。I崎さんは高知の酒と魚と、高知人の独特な気風(男は「いごっそう」、女は「はちきん」)が性にあうようです。

高知マイスターのI崎さんを味方につけ、さあこの旅、山もいいけど、大いに吞んで食べて楽しみましょー！

■10/6(金) 私は仕事の後、夜の便で高知入り。I崎さんはひとあし早い便で高知入りし、レンタカーを借り、今晚の上陸祝いのお店と仮眠場所の検討をつけていた。

高知空港でピックアップしてもらい、空港から車で10分ほどの後免町駅へ。町なかにあるけど無人駅で待合室あり。無料駐車場に車を止め、事前に調査済みの居酒屋へ行く。居酒屋はジモティーで大盛り上がり。鮮魚の盛り合わせや焼き物など酒も肴も美味しかった。

駅に戻り、軽く寝酒をし就寝。



■10/7(土) 6時起床。待合室にはいつの間にか自転車持ち込みのホームレスの方が寝泊まりしていた。ここは彼の定宿だったのかも。

いい天気。今日の行程は、ヒカリ石登山口～お亀岩避難小屋～天狗塚ピストンの予定。ヒカリ石登山口は車で1.5時間ほど。

登山口にはすでに車が8台ほど停まっていてほぼ満車状態。結構人気のお山なのね。傾いたトイレで済ませ、9:10歩き出し。

モミの木の多い樹林帯。ずっと同じような景色が続き、標高もあまり上げない、あまり面白みがない登山道だ。稜線が近くなると傾斜も出てきて息が上がる。小さな水場があり、2人で5Lを汲む。水場からわずかで展望が広がり、緑の稜線も見えてきた。お亀岩避難小屋も近い。

12:32 お亀岩避難小屋着。ドアを開けると薪ストーブが鎮座。さらにドアを開けるとすでに3名のハイカーが休んでいた。聞くと天狗塚登山口から登ってきて、今日は小屋泊まりとのこと。

不要な荷物をデポし、天狗塚までピストンする。天狗塚までの稜線は笹原に行く気持ちのいい道。緑の笹原には鹿トレースの線がいくつもあり、多くの鹿たちが駆けて行く様子を想像すると楽しい。

笹に交じってコメツツジの群落が点在している。春はピンクの花を咲かせて、その時季にも訪れたいところだ。

13:50 小屋から1時間ほどで天狗塚とうちやこ。先着の2人連れは西の方へ降りていった。そっちの登山道は広くてゆるくてとても気持ちよさそう。私たちはゆっくり展望を楽しんだ。三嶺や剣山への稜線も見えた。遠く太平洋が見えた気がした。いや、きっとそう。

小屋に戻り、ゆったりとスペースを使わせてもらい夕餉を楽しんだ。この日の小屋泊りは3組7名。外にテント泊1名。



■10/8(日) 5時起床。曇り。グレーの雲の間からオレンジ色の太陽が現れて「おお！日の出だ」と小屋が沸いた。でもやがて雲に隠れてしまった。

「俺、ゆうべ、カリフォルニア鍋、食べたっけ？」

「でた！ぱくぱく食べてましたよ。ちなみにカリフォルニアでなくサンフランシスコを感じるスープ、ね。」I崎さんの飲酒による記憶泥棒は、I崎さんの持ちネタか？

6:22 小屋を出発すると、一瞬雨つぶが頬にあたったが大したことなかった。今日は三嶺に登り、カヤハゲからヒカリ石登山口に戻る周遊ルート。朝から雨なら往路を戻るともりだったがこの程度なら予定通り行こう。

三嶺の▲が大きい。その右側の背後には剣山と次郎笈。6月に三嶺の山頂から見た「あっち側の気持ちよさげな稜線」をいま自分、歩いている。うれしい。

いまは大したことないが、西の方の山は雨で白く煙っていた。やがてここも雨にあたるだろう。早めに雨具を着た。濡れた笹で登山靴は水を吸って靴下まで浸水してしまった。

8:13 三嶺とうちゃこ。時を同じくして白髪小屋から登ってきた単独ハイカーも到着。オーストラリアからの若者だった。昨日は剣山に登って、白髪で泊まり、今日は名頃に降りるとのこと。下山してからのバスに乗れるか気にしていたけど、無事乗れたかな？

三嶺からカヤハゲに向かう間に7人ほどのハイカーとすれ違った。



カヤハゲで直角に西に進路を変える。フスベヨリ谷を挟んで対岸には歩いてきた稜線が望めた。高低差のあまりないゆったりとした緑の美稜線だ。

この登山道は優しくジグが切られ歩きやすいうえに、大きくて立派な巨木が点在していていい登山道だった。落葉前の樹のおかげで雨粒に濡れることはなかった。ときおり鹿の鳴き声が聞こえた。

さおりが原で廃道となった林道へエスケープすることにした。廃道林道を黙々と歩き車道ゲートから駐車場へのショートカットの階段を降りる。

11:00？光石登山口駐車場へ到着。私たちの車だけがぽつんと1台。グータッチののち、雨粒が大きくなった。

「天然の湯ながおか温泉」にて入浴。併設の台湾料理店で台湾ラーメンに中華丼のセットを食す(中学生か！)。

今晚の宿は四万十カヌー館のバンガロー。バンガローは小さかったが、布団、エアコン、ファンヒーターがあっけがたかった。

-----ここからはどーでもいい観光の話。

■10/9(月) 小雨なので山はやめた。今晚の宿の足摺岬に向けて観光。

四万十川沿いに行く。沈下橋が有名。「沈下橋から飛び込む少年たち」の印象があったのだけど、結構水深が浅くて、ここから飛び込んだら足折っちゃいそう。

途中、宿毛で海沿いの道の駅で休憩するが、津波避難のため閉館していた。そこにある海はいたって穏やかだったが、この道の駅は芝生のフリーキャンプサイトがあり、ピザやBBQができるカマドがあり、とても気持ちよさそうなところだ。いつか泊ってみたいな。

次に向かったのは柏島。小島と小島が橋で結ばれている。まるで「舟が宙に浮いて見える」ほど透明度の高いエメラルドグリーンの海がSNSなどで評判だが、実際はちょっと波があつてツツの海でした。

ランチの鯛丼ぶりは肉厚で最高でした。

「ジョン万次郎資料館」でジョン万をお勉強。

宿は足摺岬にある民宿「福田家」。磯料理が素晴らしかった～。同宿は、カナダからの女性。ひとりで四国八十八ヶ所巡礼の旅をされてるとのこと。

それと東北から大型バイクで来られた4人のおじさんたち。

宿は、土佐清水市の¥3000円分の旅行支援があった。



■10/10(火) 抜けるような青空。「帰る日はいつも晴れ」の山あるある、である。キラキラの海を見ながら、美味しい朝食をいただく。

カナダ人のヘレナさんを見送り、バイクのおじさんたちはバイクを洗い、私は汚れた登山靴を洗った。

さあ、今日はどこへ行こう？ あてもなく海岸線をドライブ。太平洋の青の青がとても美しくて眩しかった。海岸では、波が白く打ち寄せるとサーファーの黒い粒が波に消えては現れた。

四国といえば「四万十川」だけど、個人的に行ってみたかったのは「仁淀川」。全国水質ランキングは堂々1位なのダ！神秘的な青さは「仁淀ブルー」と呼ばれている。

特に行きたかった「にこ淵」は、パンフレットなどには「美しく幻想的なブルー」などキャプションが付くが、実際目にすると確かにそりゃ美しいのだけど、沢ではときどきあるよねえ、という美しさ。



それより、近くで食べたウナギが最高だった。清流仁淀川の天然ウナギ。肉厚でふわふわだ。やっぱり旅は花よりだんご。

ふう。もうこの時点でいろんなところが満ちた状態の私であるが、高知マイスターI崎さんからは、では次は桂浜へ行って、その次は五台山展望台に行き、最後は高知城を觀よう、とやる気満々。地元観光ガイド&有能タクシードライバーと化したI崎さんに身を預けるのみだ。



I崎さんのおかげで、最後の1日で、高知の名所はたぶんほぼ網羅したといっても過言ではなからう。

I崎さんによる観光名所めぐりを完遂し、旧知の方とこの晩、呑むというI崎さんと高知市内のホテルで別れ、私はレンタカーを運転し高知空港に向かった。

高知空港では、高知の最後の最後にカツオとビールでこの旅を締めた。

I崎さん、4日間、大変お世話になりました。お付き合いいただきありがとうございました。

行きたかったお山、見たかった景色、食べたかったもの、満喫できました。

また四国行きたいです。

4日ぶりの日常は、すっかり涼しくなってしまったし、どこからか金木犀の香りがして、季節が大きく変わった気がした。

コースタイム

10/7(土)9:10 光石登山口-10:00 八丁ヒュッテ-12:30 お亀岩避難小屋 12:50-13:50 天狗塚 14:10-15:00

お亀岩避難小屋

10/8(日)6:22 お亀岩避難小屋-8:13 三嶺-9:03 カヤハゲ-11:00 光石登山口

10/9(月) 四万十カヌー館-沈下橋-宿毛-か-ジョン万次郎資料館-足摺岬

10/10(火)足摺岬-仁淀川-にこ淵-桂浜-五台山-高知城-高知空港

おしまい。